

樹脂版の種類と特徴

シール印刷用0.95mm厚

デジタル版・・・CTP版とも呼ばれ、レーザーで樹脂版のブラックレイヤーと呼ばれる黒膜に直接描画をして作る樹脂版です。
アナログ版と比べ再現性が高いが、耐刷性は劣り、長期保管すると逆反りしてしまい使用できなくなります。

名称	硬度	ベース厚	特徴
DF95Y (IDGL-L 9T)	55	0.25mm	アミ点や細かな文字の再現性は最高ですが、耐刷性はあまりよくありません。 FMスクリーンやAMスクリーンの200L、マイクロ文字の印刷も可能です。
DWF95D3 (IDGL-L 9D)	55	0.25mm	トレリーのCTP版の中でもっとも一般的な版材です。 DF95Yと比べると再現性は劣りますが、耐刷性に優れています。
DF95G (IDGL-L 9X)	55	0.25mm	再現性はDF95Yに、耐刷性はDWF95D3に近い版材で、DF95YとDWF95D3の中間にあたる版材です。 ウエスで拭くと繊維が版に残りやすいので取扱いに注意が必要です。
DWF95BS4 (IDGL-L 9S2)	30	0.19mm	硬度が柔らかく、インキの転移性が高いのが特徴です。 フォーム印刷等でも使用されています。
WF SHARP Digital	70	0.29mm	CTP版の中でも硬度が高く、平圧印刷、エンボス用の雄版、活版印刷で好評の新しい版材です。 間欠機（間欠輪転機）やロータリー（輪転機）にも使用可能です。

フレキシ版・・・フレキシ印刷機で使用するフレキシ版は1.14mmや1.7mmが主流ですが、この版材はシール印刷機で従来の樹脂版と同じ感覚で利用できる0.95mm厚のCTPフレキシ版です。

名称	硬度	ベース厚	特徴
QH95T	30	0.25mm	和紙・上質紙・サテンなど、凹凸のある基材への印刷時に最大の効果を発揮します。 版が柔らかく基材の凹凸に追従するので、従来の版で印刷すると基材の凹部分に版が届かずにカスれてしまうようなところにもしっかりと印刷されます。 また、上記基材でのアミの再現にも優れていますが、耐刷性はあまりよくありません。
DF95T1 (IDFWUⅡ0.95)	30	0.30mm	和紙・上質紙・サテンなどへの印刷適正はQH95Tに次ぐ性能です。 QH95Tと比べ、再現性は劣りますが、耐刷性は大幅に優れています。

アナログ版・・・製版にネガフィルムを使用して作る樹脂版です。デジタル版よりも耐刷性に優れ、適切な条件で保管すれば、リピー特時にも問題なく使用することができます。

名称	硬度	ベース厚	特徴
WF95CH2	70	0.35mm	主に平圧機で使用する版材で、硬度が高く、印刷時に潰れにくいのが特徴です。 硬いのでシリンダーに巻いて使用するのにはあまり向きませんが、大きめのシリンダーに巻いて使用する場合があります。
WF95D2(IDD2J)	55	0.25mm	間欠機（間欠輪転機）やロータリー（輪転機）で使用するもっとも一般的な版材です。
WF95B2	40	0.19mm	硬度が低く、インキ転移性が高いのでニスやベタものを印刷するのに適した版材です。

シール印刷機フレキシユニット用1.14mm厚

シール印刷機には通常の印刷ユニットとは別にフレキシユニットが設備された印刷機があります。
主にニス引きや糊殺しなどで使用されるユニットで、0.95mm厚ではなく1.14mm厚のフレキシ版が使用されます。

名称	硬度	ベース厚	特徴
QS114	約30	0.50mm	FWUⅡ1.14と比べ、インキ転移性に優れています。
FWUⅡ1.14	約30	0.50mm	QS114と比べ、耐刷性に優れています。